

安芸高田市総合計画審議会 第1回資料

【資料 1】
第 3 次安芸高田市総合計画策定の進め方

総合計画とは

総合計画とは、市が取り組む「まちづくり」の最上位に位置する計画で、**今後20年を見越した行政運営の総合的な指針**です。安芸高田市が目指す将来像と、将来像の実現のための政策目標、さらに政策目標を実現するための施策目標を掲載しています。すべての計画は、総合計画を基本として策定されます。

第2次安芸高田市総合計画の計画期間は以下のとおりであり、計画期間が令和6年度で終了することから、本審議会にて第3次安芸高田市総合計画の策定を行います。

現計画の計画期間

前期：平成27（2014）年度から平成31（2019）年度

後期：令和2（2020）年度から令和6（2024）年度

総合計画の役割

総合計画は「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成され、内容と計画期間は以下のとおりです。

	内容	計画期間	
		第2次（現行）	第3次（次期）
基本構想	総合計画の最上位に位置し、総合的かつ計画的な行政運営を図るために定める基本的な構想をいいます。	10年間	20年間
基本計画	市政の基本的な計画であり、基本構想を踏まえた施策の基本的な方向及び体系を示すものをいいます。	5年間	4年間

総合戦略とは

安芸高田市の人口減少対策、地方創生の方針を「第2次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（R2.3）」に示し、全市を挙げて取り組んできましたが、以下のとおり、計画期間が令和6年度で終了することから、次期総合戦略の策定を行います。なお、次期総合戦略は、総合計画と一体的に策定することから本審議会において策定します。

現計画の計画期間

令和2（2020）年度から令和6（2024）年度

令和4年度に国において策定された「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえた、第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定します。

総合戦略の役割

総合戦略の役割は以下のとおりです。

位置付け	人口減少対策、地方創生の取組を位置付ける計画
計画期間	4年間の短期スパン
記載する施策	人口減少対策、地方創生に係る行政施策が対象 総合計画と違い、事業レベルの内容も記載
国の補助支援	総合戦略に位置付けた事業の実現に向けて、デジタル田園都市国家構想交付金等の補助支援あり

総合計画と総合戦略の一体化の必要性

- ① 総合戦略に位置付ける取組は、多分野に跨り、総合計画に位置付けられる取組と重複傾向にあります。
- ② ①と同様の理由により、施策や事業の進捗管理が分かりにくい傾向にあります。

上記①・②の課題を解決するために、総合計画と総合戦略の一体化を図ります。



総合計画と総合戦略の一体化における留意事項

内閣府デジタル田園都市国家構想実現会議事務局内閣府地方創生推進室が公表する「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き（令和5年12月版）」に記載のある以下の事項について、考慮する必要があります。

総合計画やDXの推進に関する計画等を見直す際に、見直し後のこれらの計画等が、デジタルの力を活用した地方創生という目的が明確であり、目標や重要業績評価指標（KPI）が設定されるなど、地方版総合戦略としての内容も備えているような場合には、これらの計画等と地方版総合戦略を一つのものとして策定することは可能です。策定、改定に当たっては、これらの計画等の中から、デジタルの力を活用した地方創生を目的とする施策や重要業績評価指標（KPI）を抽出し、地方版総合戦略とすること等も考えられます。



総合計画と総合戦略の一体化の方針

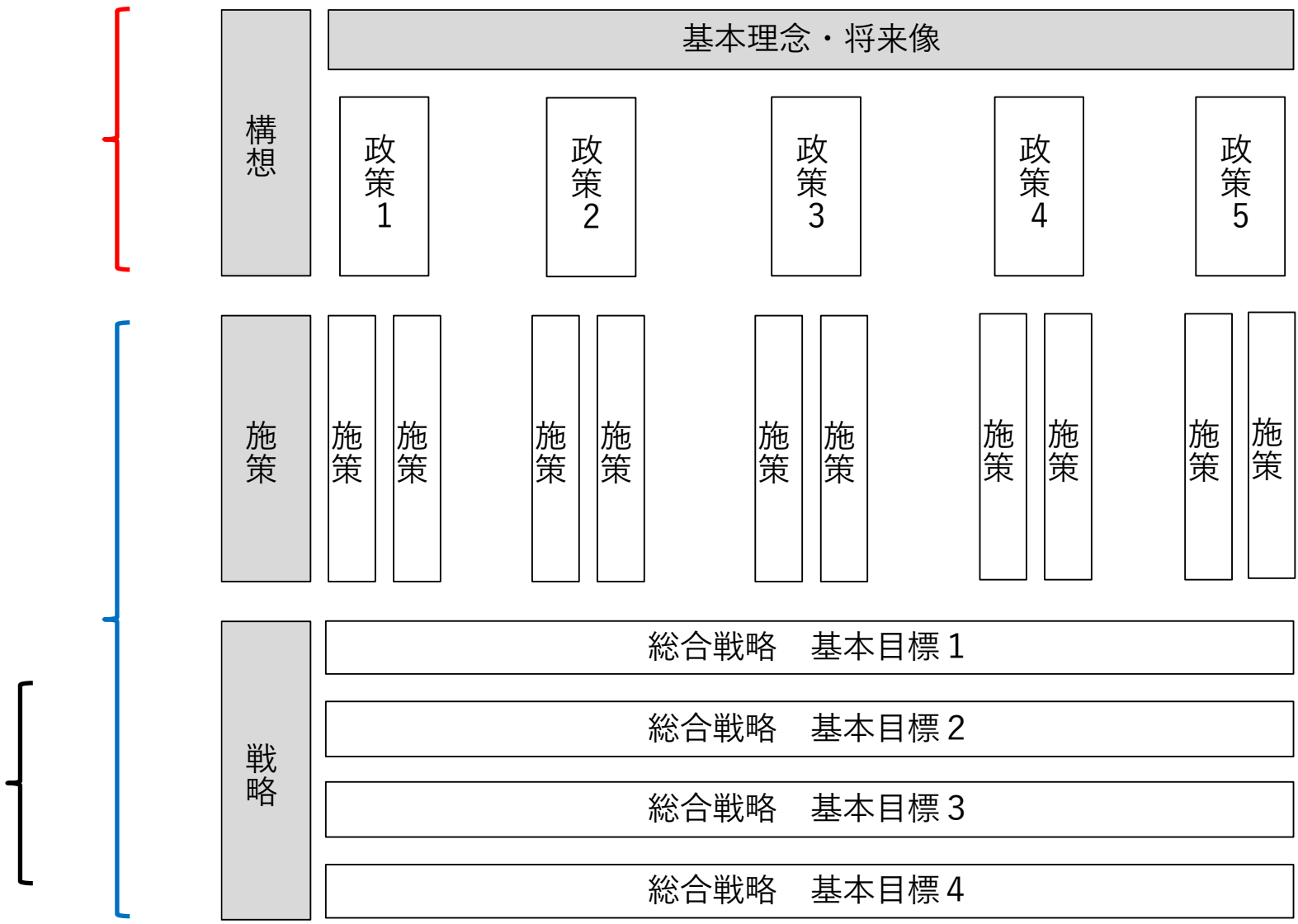
総合計画基本計画において、デジタルの力を活用した人口減少対策、地方創生に向けて、**重点的・優先的に取り組む必要がある施策を「総合戦略」として位置付ける**ことにより、一体化を図ります。

・ 第3次安芸高田市総合計画の全体像は以下のとおりです。
・ 総合戦略は基本計画に包括し、各政策・施策を横断する基本目標を設定、人口減少対策となる施策・事業を位置付けます。

【基本構想】
・ 計画期間は20年間

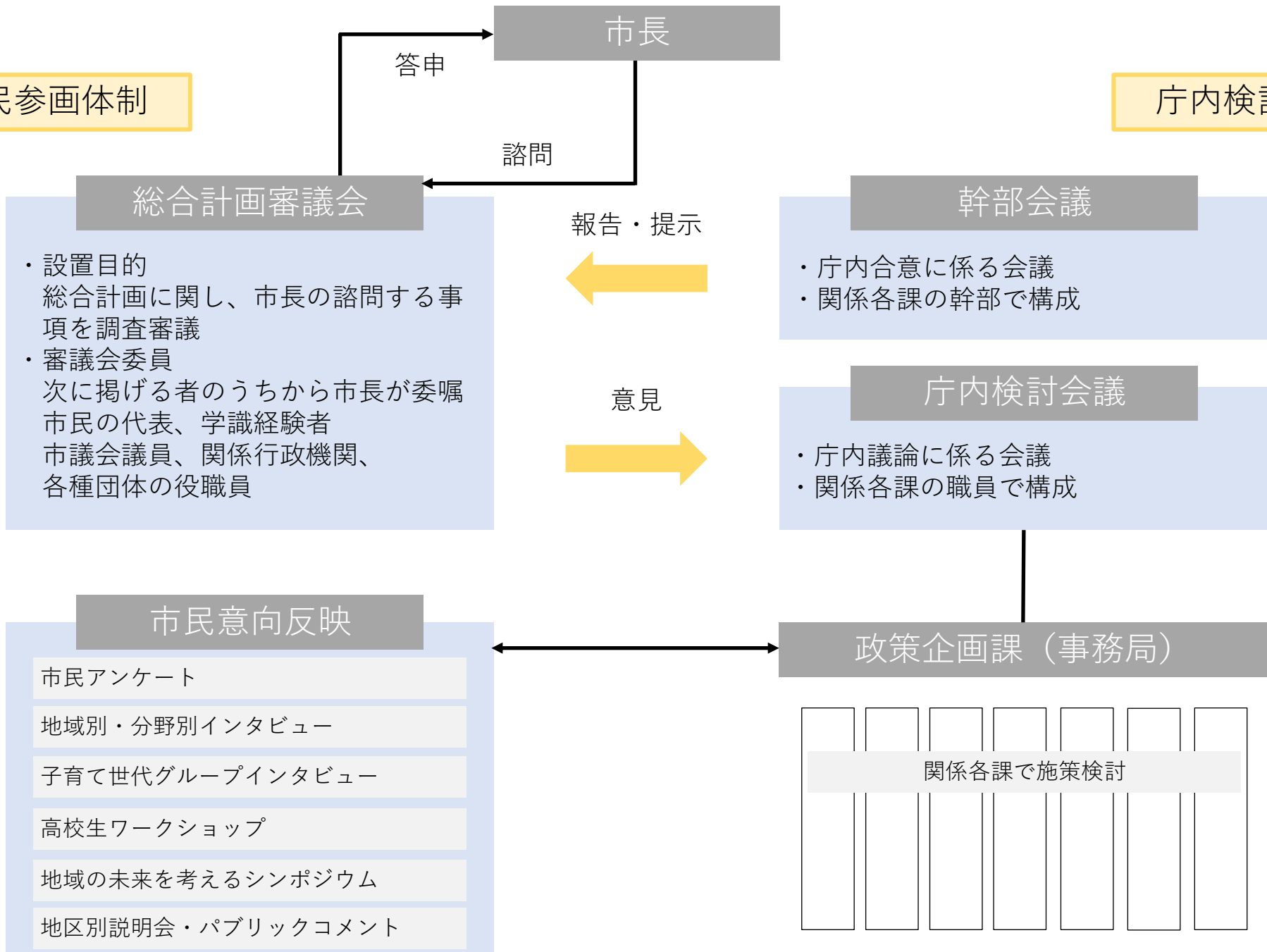
【基本計画】
・ 計画期間は4年間

【総合戦略】
・ 計画期間は4年間



市民参画体制

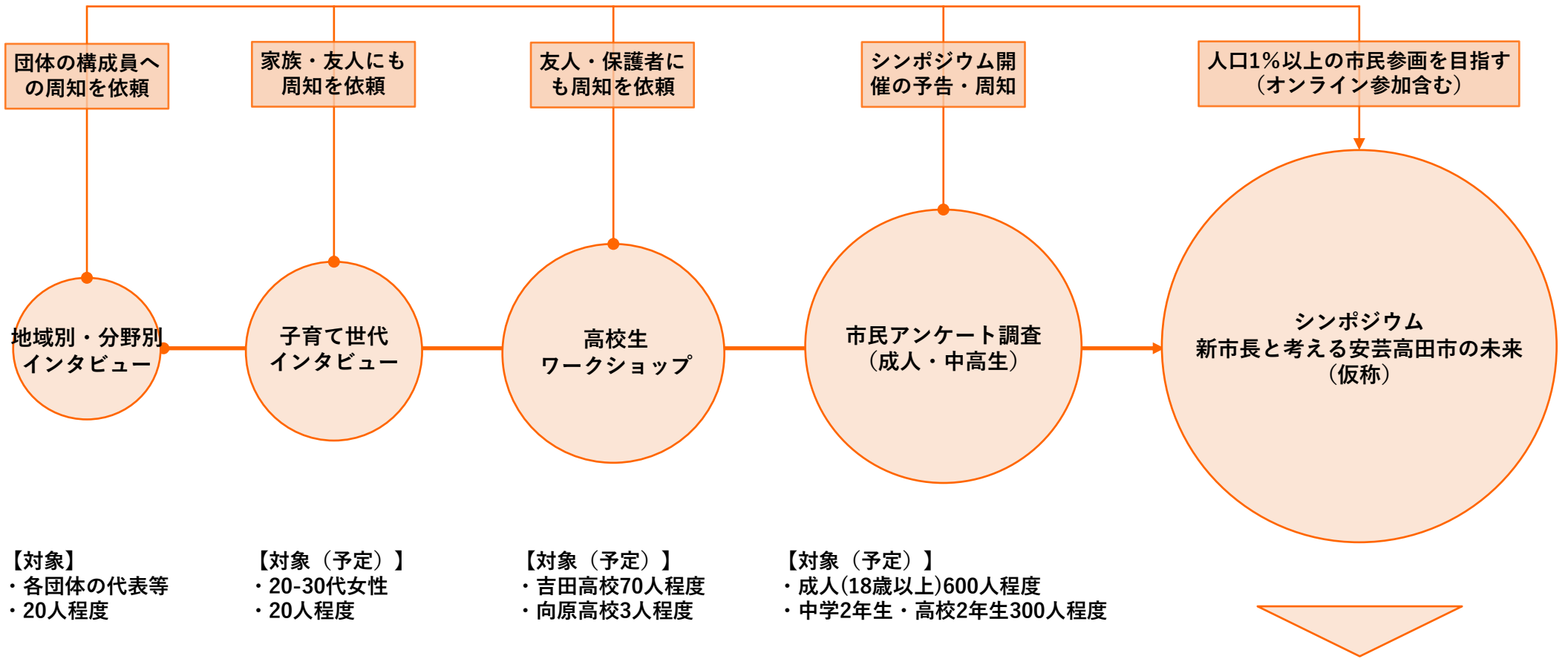
庁内検討体制



●市民参画の進め方

- ・今年度の基本構想の策定に向けて、「世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観、20年後に次世代（子や孫世代）に受け継ぎたい価値観」をインタビュー、ワークショップ、アンケート調査により検討し、シンポジウム及びパブリックコメントで多くの市民と共有します。
- ・総合計画の策定を通じて、多くの市民が同じ言葉、同じイメージで安芸高田市の未来を語れる状態を目指します。

●今年度の市民参画のプロセス（イメージ）



パブリックコメントの実施

○の大きさ：市民参画の人数のイメージ。市民との対話等を徐々に進め、シンポジウムを開催。

●シンポジウムのプログラム（案）

<タイトル>

- ・新市長と考える安芸高田市の未来（仮称）

<開催目的>

- ・基本構想の周知・公表、住民のまちづくりの自分事化、まちづくりへの期待感、仲間探し

<募集方法>

- ・高校経由で保護者とその家族にチラシ配布、市HP、各種SNSで周知

<実施時期>

- ・パブリック・コメント実施前にシンポジウムを開催

議題	時間（分）	担当	内容
市長開会挨拶	5	市長	・新市長挨拶、安芸高田市の未来への思い
事務局説明	20(25)	政策企画課	・基本構想素案の説明
基調講演	20(45)	先進事例都市の行政担当者 ※今後調整	・市民を巻き込んだ総合計画策定のポイント ・計画策定後の状況及び今後の展望
特別講演①	10(55)	高校生	・安芸高田市の将来像と施策提案
特別講演②	10(65)	高校生	
市長との対話	30(95)	市長×高校生	・高校生提案を受けて対話
休憩	10(75)	---	---
パネルディスカッション①	50(125)	市長×各分野事業者 ※事業者は10名程度 ※ヒアリング対象者	・基本構想を踏まえ、安芸高田市の今後のキーワードを出して頂き、議論 ・社会経済情勢の変化も踏まえた上で、今後大切にしたい価値観を出して頂き、議論
パネルディスカッション②	50(175)	市長×女性子育て世代 ※女性は10名程度 ※ワークショップ参加者	
今後のスケジュール	5(180)	政策企画課	・次年度以降の進め方（基本計画メイン）
閉会挨拶（部長又は副市長）	5(185)	政策企画課	・総括、閉会挨拶

検討事項	R6年度									R7年度【予定】																						
	8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月					
計画・戦略	第3次総合計画基本構想		●骨子				●素案						●原案				●公表															
	第3次総合計画基本計画												●骨子				●素案				●原案						●公表					
	次期総合戦略		●骨子				●素案						●原案				●公表				●修正						●公表					
	人口ビジョン		●骨子				●素案						●原案				●公表										●公表					
市民参画	市民アンケート調査		← 調査票設計			← 調査物件作成			← 実査期間			← 集計・分析																				
	地域別インタビュー		← 企画・準備		← インタビュー				← とりまとめ																							
	分野別インタビュー		← 企画・準備		← インタビュー				← とりまとめ																							
	子育て世代インタビュー		← 企画・準備		← インタビュー				← とりまとめ																							
	高校生ワークショップ		← 企画・準備		← 参加者募集		← 1回開催		← とりまとめ																							
	シンポジウム		← 企画・準備			← 各高校3回開催						← シンポ講演資料の作成支援						●														
	地区別説明会													← 企画・準備				← 説明会														
	パブリックコメント													●													●					
各種検討会	審議会		① ●				② ●						③ ●				① ●				② ●				③ ●							
	庁内検討会議				① ●						② ●				③ ●				① ●				② ●				③ ●					
	幹部会議						① ●				② ●				③ ●				① ●				② ●				③ ●					
庁内調整	市長インタビュー		●				●						●				●				●				●							
	関係各課調整		← 関係各課ヒアリング																													

【資料 2】

第2次総合計画及び第2次総合戦略の振り返り

第2次総合計画及び第2次総合戦略の振り返り

●第2次総合計画（後期基本計画）の振り返りの方法

- ・関係各課に以下の事項について、アンケート調査を行い、評価を実施します。

	調査項目	調査内容
具体的施策 実施状況調査	具体的施策の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的施策実施による成果 ・ 具体的施策実施による以前との変化 ・ 具体的施策実施後の、解決していない積み残しなどの課題
	事務事業の進捗状況評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業の進捗を完了/継続/見直し/未実施で評価 ・ 上記評価の理由

●第2次総合戦略の振り返りの方法

- ・各基本目標の施策の成果指標（下表）および施策の実施指標の目標値（R6）と実績値（R6）を比較し、評価を実施します。
- ・評価の結果（上振れ・下振れ）を踏まえ、その要因について関係各課ヒアリングにより詳細を把握します。

基本目標	代表目標指標	基準値（H30）	目標値（R6）	実績値（R6）
I 安心して住み続けられる環境をつくる事業	合計特殊出生率（推計）	1.52	1.80	追加
II 人をつなげる事業	人口の社会増減	+9人	+30人	追加
III ここにしかない歴史・文化を未来につなげる事業	観光客数	1,637千人	2,000千人	追加
IV 循環の「環」をつなげる事業	地域経済循環率	74.7%	80%	追加

【資料 3】
社会経済情勢の変化と安芸高田市の現状と将来

●安芸高田市の現状と将来（概要）

・総合計画の策定においては、テーマに応じて、定量整理・定性整理を実施し、政策・施策の検討を行います。

●安芸高田市の現状と将来の整理進捗

テーマ	定量整理（一部抜粋）	定性整理（審議会委員へのヒアリング結果の一部抜粋）
商業	・年間商品販売額は減少(2016年：282億円、2021年：248億円) ※経済産業省「商業統計調査」、「経済センサス-活動調査」を活用	・創業支援以上に企業の生き残りの支援が一番の課題 ・安芸高田市に住まずに通勤する者が多い等
工業	・製造品出荷額等は増加(2016年：1,023億円、2022年：1,182億円) ※経済産業省「工業統計調査」、「経済構造実態調査」を活用 ・広島市からの通勤は増加(2015年：2,198人、2020年：2,478人) ※総務省「国勢調査」を活用	・働き手が不足しており、企業自体を知ってもらうことが重要 ・会社同士の連携を強めていくことが必要等
農業	・基幹的農業従事者の約84%が65歳以上、平均年齢は72歳(2020年) ※農林水産省「農林業センサス」を活用	・新規就農が少ない状況にあり、学生のうちから農業を体験し、農業の面白さや大切さを伝えていくことも重要等
林業	・素材生産量は増加(2015年：45,018㎡、2020年：46,429㎡) ※農林水産省「農林業センサス」の林作業請負・立木買いを活用	・就農支援的な制度がなく、将来の担い手のことを考えると、今の内から制度を設計しておくことも重要等
教育	・小学生の数は2019年から5年間で約18%減少(2019年：1,215人) ※広島県教育委員会、公立学校基本数を活用	・コロナの影響により、子ども会もなくなり、子供と大人、大人同士、先生と大人のつながりが希薄な状況にある等
子育て	・産婦人科系診療所が存在しない ※公益社団法人日本医師会「地域医療情報システム」を活用	※今後子育て世代向けワークショップを実施予定
インフラ	・公共施設を全て保有し続けると仮定した場合、2022年度から40年間で発生する更新・大規模改修費用は年平均約30億円 ※安芸高田市公共施設等総合管理計画(2022年9月改定)より抜粋	-----
医療	・安芸高田市では、将来的に人口が減少する中、前期高齢者及び後期高齢者も減少することが予測されるため、医療需要及び介護需要は将来的には減少 ※公益社団法人日本医師会「地域医療情報システム」を活用	・一番の課題は看護師不足であり、この対応が最も重要 ・人口減少が進めば内科等も将来なくなることが危惧される等
福祉		・地域力や共助が低下し、担い手・後継者の問題が加速 ・地域から認知されていない社会的少数派の問題も存在等
観光	・観光客数は増加(2019年：約169万人、2022年：約217万人) ※ひろしま公式観光サイト「Dive! Hiroshima」を活用	・安芸高田市のコンテンツは①神楽、②毛利元就、③サンフレッチェであり、特化させていく必要がある等
多分化共生	・外国人人口は増加(2019年：667人、2023年：865人) ※総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」を活用	・技能実習生は増え続けているが、地域との関わりが現状少ない ・製造業、介護福祉、農業の分野で技能実習生が求められている等
プロモーション	・Googleトレンド（2024.8月時点の検索結果）に基づけば、直近2年間の安芸高田市の人気度は同規模他都市に比べて高い	-----
ライフスタイル	・全国的にテレワーク実施率、地方移住・二地域居住のニーズ増加 ※国土交通省「二地域居住等の最新動向について」（2023年）を活用	-----

【資料4】
第3次総合計画の骨子案

第3次総合計画の骨子案 ①構成と検討のポイント

目次構成	検討のポイント
第1章 序論	
1 総合計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・計画年度、基本計画・実施計画の位置付け ・総合計画、総合戦略の一体化と役割を整理 等
2 社会経済情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・加速する人口減少、新たなライフスタイル・価値観、インバウンドの増加 等
3 第2次総合計画の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各課ヒアリングを踏まえた定性的整理 等
4 安芸高田市の強みと課題	<ul style="list-style-type: none"> ・統計データを活用した分析 等
第2章 基本構想	
1 将来像と目標人口	
(1)将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画意見を踏まえた上で、世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観を設定 ⇒市民アンケート調査で定量的に把握し、将来像を検討
(2)将来像の実現に向けた3つの挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ・市長インタビューを実施し、公約との整合性を担保 ⇒子育て支援と学び、生涯活躍のまち、産業振興・企業誘致など
(3)将来像の実現に必要な目標数値	<ul style="list-style-type: none"> ①目標人口（≒人口ビジョン） <ul style="list-style-type: none"> ・住み続ける上で必要な生活サービス機能を維持するために必要な目標人口を設計 ⇒小学校、中学校などの教育機能の維持・確保など ②幸福度（新規追加の目標数値） <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査結果を踏まえ、現況と将来的に目指す幸福度を設計
2 政策体系	<ul style="list-style-type: none"> ・市長インタビューを実施し、公約との整合性を担保 ・現計画の政策体系をベースに、安芸高田市の課題や新たな政策動向を踏まえた検討を実施 ⇒課題：将来的に女性・子育て世代が半数以下に減少 ⇒動向：脱炭素、デジタル、公民連携 等
3 政策目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各政策目標を横断する新たな政策を設計 ⇒デジタル、公民連携、シティプロモーション 等
4 計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①政策の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区の設定、モデル事業の設定、それら成果の他地区への横展開 等 ②地域との接点づくり【先進地を事例調査】 <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関との連携（高校総合探究等）、市民向け報告会の開催（市民提案・挑戦を応援等） 等 ③職員との接点づくり <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画に位置付ける施策が地域・市民に与える影響・効果の明確化 等

目次構成	検討のポイント
第3章 基本計画	
3-1 リーディングプロジェクト【=次期総合戦略として扱う】 ※現計画では、市における今後5年間の重点施策群で、将来像の実現に向け、重点的かつ分野横断的に取り組んでいく事柄を整理	
1 若者の定住促進強化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略に置き換えて整理 ⇒Ⅰ 安心して住み続けられる環境をつくる事業 ⇒Ⅱ 人をつなげる事業 ⇒Ⅲ ここにしかない歴史・文化を未来につなげる事業 ⇒Ⅳ 循環の「環」をつなげる事業
2 地域経済の好循環推進プロジェクト	
3 次代を切り開く青少年育成プロジェクト	
4 コミュニティ活動の高度化プロジェクト	
3-2 分野別計画	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各課アンケート調査を踏まえ、位置付ける施策・具体取組を更新
3-3 横断計画	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル、公民連携、シティプロモーション等の横断計画を位置付け

●第3次総合計画の骨子案 ②将来像の検討

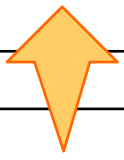
<将来像を検討する上での着眼点>

- ・市のキャッチフレーズ「百万一心、未来へつなぐ安芸高田市」の将来像への落とし込みを行います。
 - ⇒着眼点①：百万一心・・・対象者は？、を検討
 - ⇒着眼点②：未来へつなぐ・・・誰に、何を？、を検討

<着眼点①「百万一心」への対応方針>

●対象者（対象者は？）

- ・人口減少下において、**定住人口だけでなく、地域との関わりが深い関係人口も対象**にする必要があるものと思慮します。

地域との関わり度合い	対象者	定義
	定住人口	・その地域に住んでいる人々
	関係人口	・定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々
	観光客	・日常生活圏を離れ、継続して1年を超えない期間の旅行をし、また滞在する人々

<着眼点②「未来へつなぐ」への対応方針>

●対象者（誰に）

- ・基本構想は20年後の地域の未来を考えるため、**次世代（子ども・孫世代）が対象**になるものと思慮します。

●未来につなぐ価値観（何を）

- ・以下のプロセスにより、**世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観**を検討します。

STEP1：地域、各団体へのヒアリングにより、世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観を把握
⇒精神的な豊かさ、人のやさしさと寛容性、原風景・・・など

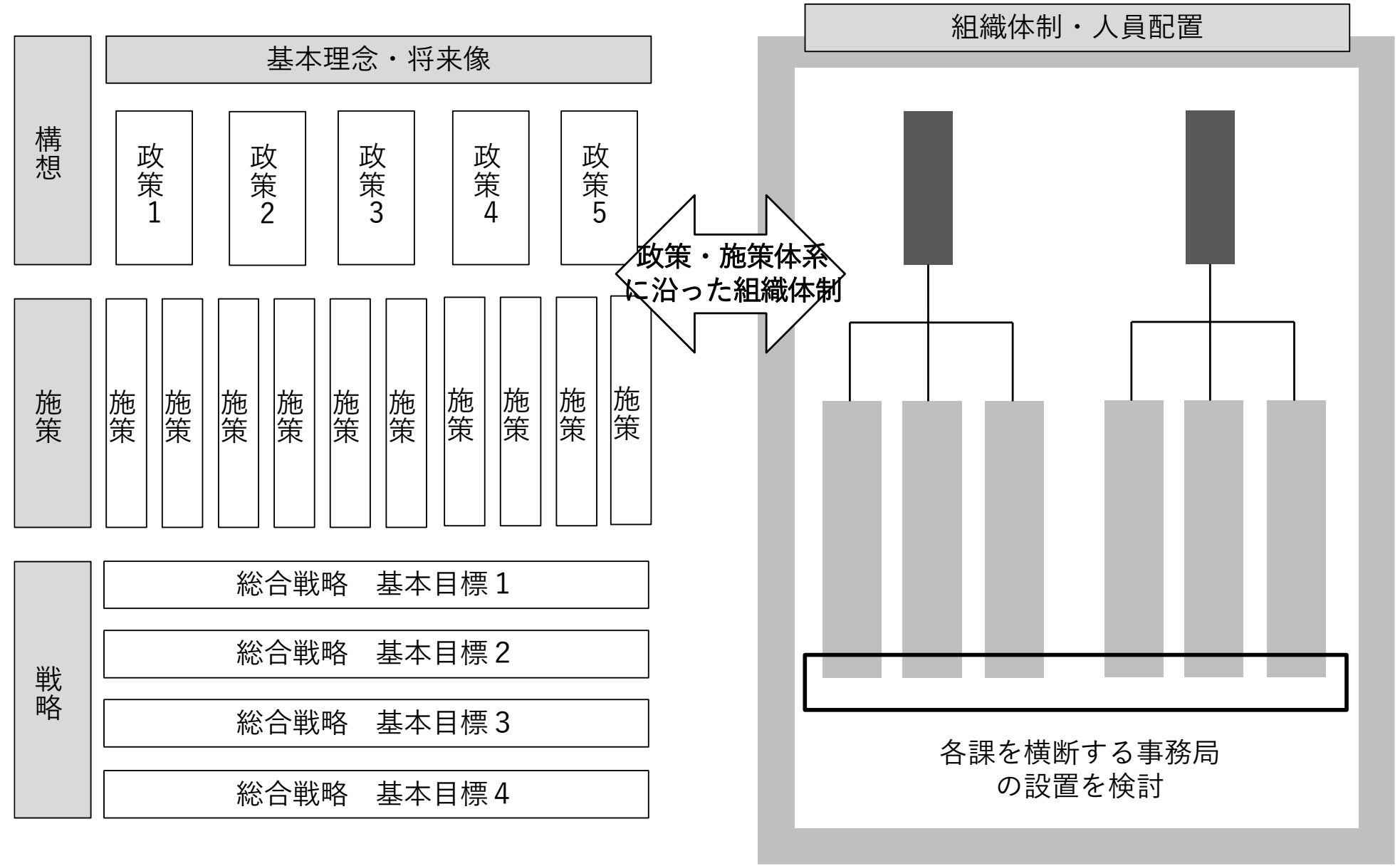
STEP2：市民アンケート調査により、世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観のキーワードを抽出

STEP3：STEP2の結果を踏まえて、事務局側で将来像を検討

STEP4：多くの市民が参加するシンポジウムで将来像を共有

●政策体系と組織体制・人員配置の対応（案）

- ・ 総合計画の政策別記載では、組織体制・人員配置と関連付けて政策・施策を整理します。これにより、総合計画の管理体制や、政策・施策の責任部署が明確となるため、実効性のある計画を担保します。
- ・ 一方で、総合戦略については、政策を横断する戦略が求められ、課を跨ぐ事務局の設置を検討し、実効性を担保します。



【資料5】
次期人口ビジョンの骨子案

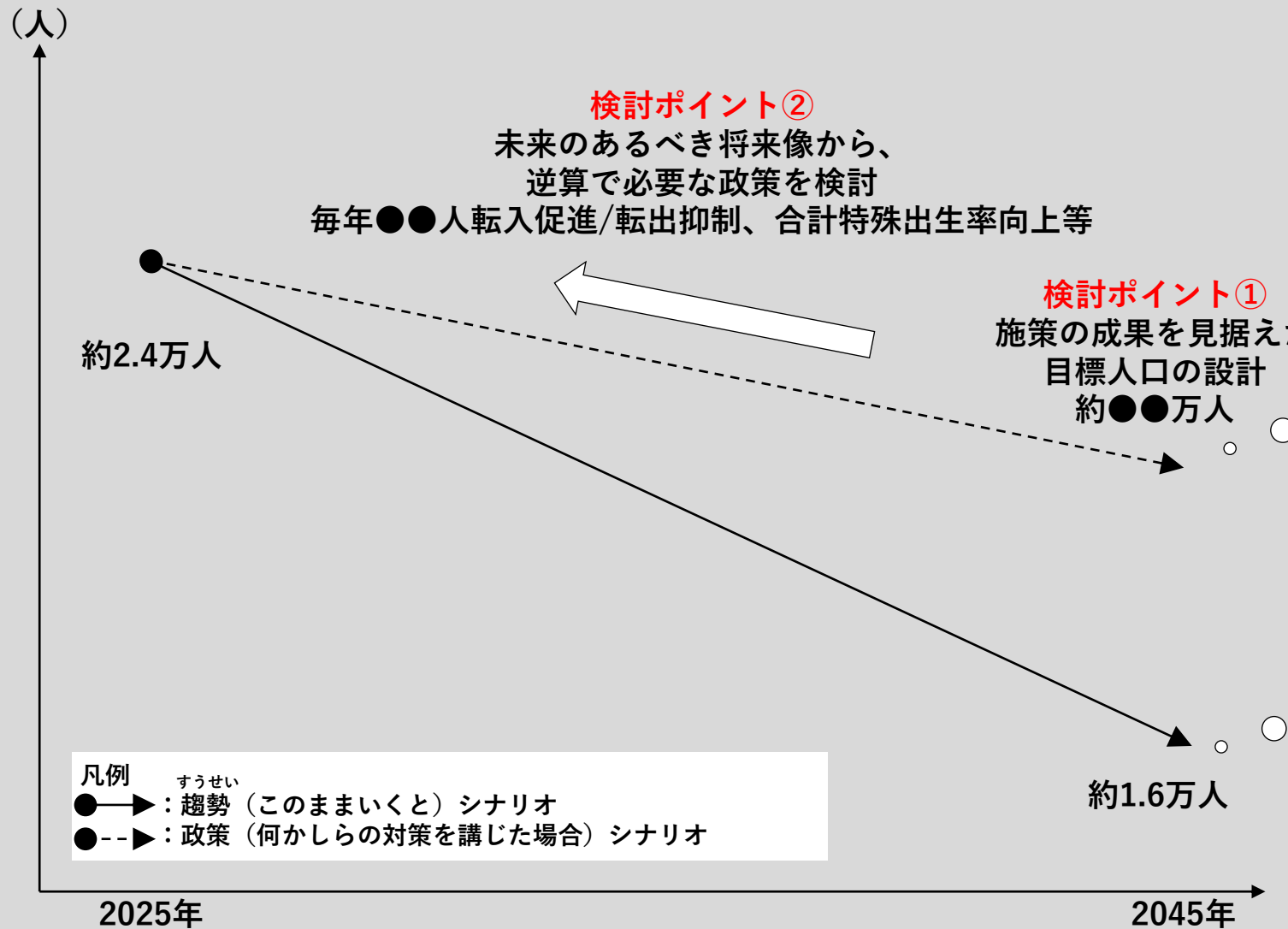
・ 検討ポイント①：施策の成果を見据えた目標人口の設計

⇒人口変化が地域に与える影響を見極め、それを阻止するために必要な人口規模を目標人口として設計します。

・ 検討ポイント②：未来のあるべき将来像から、逆算で必要な政策を検討

⇒目標人口を起点に、逆算で毎年呼び込む必要のある人口を導出し、それに必要な施策を検討します。

将来の人口の変化



地域に与える影響

住み続ける上で必要な生活サービス機能を維持・確保

(例示)

- ・ 小学校の統廃合を阻止
- ・ 生活機能サービス（コンビニ、公共交通等）を確保等

(例示)

- ・ 小学校の統廃合
- ・ 生活機能サービス（コンビニ、公共交通等）の撤退等

人口減少が加速、負のスパイラル
存続が危ぶまれる地域も・・・

次期人口ビジョンの目次構成（案）	ポイント
1.人口ビジョンの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の成果を見据えた目標人口を設計し、未来のあるべき将来像から、逆算で必要な政策を検討 ・市民が住み続ける上で必要な生活サービス機能を維持・確保
2.安芸高田市の人口動向の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・現行人口ビジョンのデータ更新を実施
3.趨勢人口の推計	<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルな章構成に変更 ⇒手法、市全体、地区別、メッシュの結果
(1)人口推計手法の概要	
(2)市全体趨勢人口の推計	
(3)地区別趨勢人口の推計	
(4)メッシュ趨勢人口の推計	
4.人口変化が地域に与える影響	<ul style="list-style-type: none"> ・趨勢人口をベースに、将来の人口変化が地域に与える影響を示し、維持すべき適切な人口規模を考察
5.将来像の実現に必要な政策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・4章の結果を踏まえ、目標人口を設計 ・逆算で毎年何人の転入促進、転出抑制、出生数増加を目指す必要があるか、将来像の実現に必要な政策を検討
(1)目標人口の設計	
(2)政策の検討	
6.総括	<ul style="list-style-type: none"> ・人口ビジョンで設計した目標人口を達成するために次期総合戦略の施策を推進する旨、総合戦略との関連性を整理

●将来像の実現に必要な政策の検討方針

●将来像の実現に必要な政策の検討の目的

- ・人口減少に伴う地域・財政への影響を定量的に把握し、関係者で現状・将来と危機感を共有します。
- ・確実に訪れるネガティブな将来をどのようにポジティブに変換していくか、関係者で議論し、計画・戦略に位置付けます。

●将来像の実現に必要な政策の検討ステップ

STEP1：人口減少に伴う地域への影響

- ・長期的な人口減少により、各種の生活サービス機能の維持が困難と考えられます。

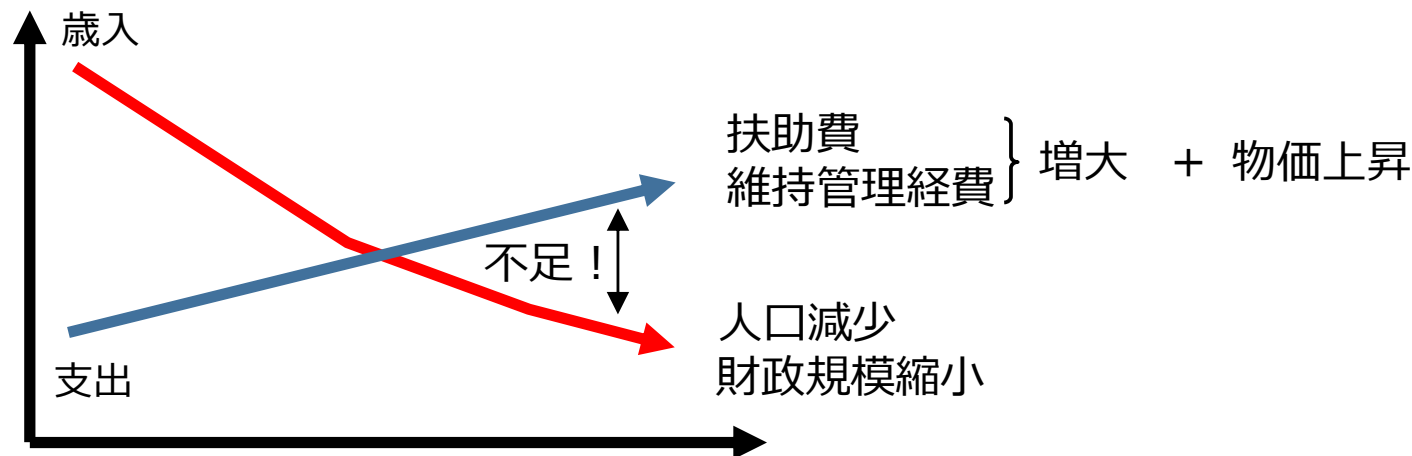
STEP2：人口減少に伴う財政への影響

- ・「現在の状態」を「現在の手法」で残していくことが困難と考えられます。
 - ⇒どんな機能を残すのか（必要なのか）
 - ⇒その施設を存続させるために必要な条件（基準）は何か
 - ⇒存続させる手法は何か（誰がやるのか）

STEP3：人口減少に伴う地域・財政への影響を踏まえて、未来のあるべき将来像からの逆算により、直近4年間の取組を検討（基本計画）

- ・既存の機能を残すための基準、新たな機能をどのように確保するか等について、検討します。

【概念図】 将来的な人口減少に伴う財政規模縮小と支出増大のイメージ



【資料6】 市民アンケート調査の概要

●市民アンケート調査の概要 ①市民アンケート調査

●市民（18歳以上）アンケート調査の概要

【調査目的】

- ・幅広い世代の市民の意識を計画に反映するためです。
- ・まちづくりの満足度・重要度や世代を超えて共通する価値観、安芸高田市の将来の方向性などを把握します。

【調査対象】

- ・市内に居住する18歳以上の方が対象です。

【調査方法】

- ・住民基本台帳から無作為抽出します。
- ・郵送数：2,000人、目標回収数：600人、想定回収率：30%（前回32.1%）を想定しています。

※調査票はWEB回答（QRコードを付与）を推奨とし、紙回答も可とします。

【調査時期】

- ・令和6（2024）年11月

【調査設問】

- ・前回調査も参考とし、以下の調査設問（案）を設計します。合併に係る設問は今回調査からは除外します。

区分	設問	狙い	備考
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> ・性別、年齢、世帯構成 ・就学先、勤務先 ・居住地区、居住年数 ・居住履歴 	<ul style="list-style-type: none"> ・集計のカテゴリー設計で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査から居住履歴を追加 →UIJターンの区分を把握し、各区分で集計
安芸高田市への 愛着度・定住意向と幸福度	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着度 →愛着度が高い理由 →愛着度が低い理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への愛着度を高めるための施策検討で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査から理由を確認する設問を新規追加
	<ul style="list-style-type: none"> ・住み続けたいか →住み続けたい理由 →住み続けない理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な世代の転出抑制に必要な施策検討で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査から住み続けたくない理由を確認する設問を新規追加
	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の幸福度 ・可処分所得、可処分時間、健康状況、人とのつながり等 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標で活用（幸福度） ・多様な世代の幸福度を高めるための施策検討で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回調査から追加
安芸高田市の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境分野、都市整備分野、安全安心分野、健康福祉分野、産業分野、教育文化分野、コミュニティ分野 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民目線による施策の評価 →満足度と重要度の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様とし、経年変化や比較分析が出来るように留意
安芸高田市の将来	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少時代におけるまちづくりのあり方と政策の方向性 ・人口減少時代でも残したい機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が望む政策の方向性を確認 →政策シナリオとのすり合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回調査から追加 →前回調査の新しい公助、市民活動を包括する形で整理
	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代（20年後の子や孫）に受け継ぎたい安芸高田市の良さ・価値観 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像の検討で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回調査から追加 →前回調査でも類似設問あり

● 市民アンケート調査の概要 ② 中高生アンケート調査

● 中高生アンケート調査の概要

【調査目的】

- ・次世代を担う子どもたちの意見を計画に反映するためです。
- ・高校卒業後、一度市外に出ても戻ってきたくなる、住み続けたい安芸高田市の将来の方向性などを把握します。

【調査対象】

- ・市内の学校に通学する中高生（中学2年・高校2年）が対象です。※進学・就職等の将来を考える時期になる2年生が対象

【調査方法】

- ① 中学校経由によりアンケート調査票を中学生に配布し、回収します。
 - ② 高校経由によりアンケート調査票を高校生に配布し、回収します。
 - ③ 市民アンケート調査の付帯調査として、市外の高校に通う高校生に配布し、回収します。（市外高校に通学する学生への考慮）
- ※調査票はWEB回答（QRコードを付与）を推奨とし、紙回答も可とします。

【調査時期】

- ・令和6（2024）年11月

【調査設問】

- ・前回調査も参考とし、以下の調査設問（案）を設計します。

区分	設問	狙い	備考
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> ・性別、年齢 ・居住地区 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様
今後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で考える今後の進路 ・将来どのような職業につきたいか ・地元企業の情報を知っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生時代からの地元企業との接点づくりの検討で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回調査から追加
安芸高田市への愛着度・定住意向	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着度 <ul style="list-style-type: none"> →愛着度が高い理由 →愛着度が低い理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への愛着度を高めるための施策検討で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様
	<ul style="list-style-type: none"> ・住み続けたいか <ul style="list-style-type: none"> →住み続けたい理由 →住み続けたくない理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的なUターンを見据えた施策検討で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様
地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりへの参画意向 <ul style="list-style-type: none"> →ありの理由、なしの理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生時代からの地域との接点づくりの検討で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回調査から追加

【資料7】

第3次総合計画策定における主要な論点事項

① 次期総合計画の基本構想について

【前提】

- ・ 人口減少、財政規模縮小、機能の存続/廃止/縮小について

【将来像】

- ・ 将来像の検討方法について
- ・ 世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観について

【政策体系】

- ・ 基本構想に位置付ける政策体系について

② 次期総合戦略について

【ターゲット設定】

- ・ 人口減少対策として誰を重点ターゲットにするか
⇒ 外国人、関係人口（通勤者、大学生、神楽ファンなど）、20-30代女性など

【総合戦略に位置付ける施策】

- ・ 分野を横断する重点的な施策として、何が想定されるか

③ 次期人口ビジョンについて

【目的の明確化】

- ・ 何のために目標人口を設定するか
⇒ アウトカム（小学校の維持、中学校の維持、生活サービスの維持など）

④ シンポジウムについて

- ・ シンポジウムのプログラム（案）について